

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	非常勤講師任用
代表者名	東長靖(大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授)
事業概要 (600 字程度)	<p>フィールドワークと現地資料の読解を基礎とするアジア地域研究のためには、現地語学の正確な読解・自由な運用が必須である。本事業は、フィールドワークと現地資料の読解にもとづいた独創的な研究を志す次世代のアジア地域研究者のために、現地語習得のための講義を開講し、その能力向上をめざすものである。具体的には、西アジア地域研究にとって必須の言語であるアラビア語、南アジア地域研究にとって重要な位置づけを占めるヒンディー語の 2 言語を対象に、これらの言語の運用能力を向上させる講義を開講する。具体的には、初級文法を終え、専門性の高い研究を始めている大学院生を対象に、文献読解の徹底的な訓練を行う。また、必要に応じて会話能力の涵養にも努める。本事業の実施のために、当該語学教育に精通した外部講師を雇用し、研究科共通科目として「ヒンディー語」および「アラビア語」の講義を開講する。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>平成 26 年度は、本事業の経費によって、後期に「ヒンディー語Ⅳ(中級)」、「アラビア語Ⅱ(初級)」「アラビア語Ⅳ(中級)」の講義を開講した。「ヒンディー語Ⅳ(中級)」については、大阪大学大学院言語文化研究科の西岡美樹氏、「アラビア語Ⅱ(初級)」「アラビア語Ⅳ(中級)」については、本学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科特任研究員の竹田敏之氏を雇用し、これらの講義を実施した。</p> <p>西アジア・南アジアの主要言語であるヒンディー語・アラビア語による原典を正確に読解することは、長い文化的伝統を有する両地域を研究するうえで極めて重要である。欧米研究者によって書かれた英語文献のみに依存した皮相な現代研究にとどまることなく、歴史を踏まえたアジア地域研究を形成していくうえで、現地語運用能力の向上をめざす本事業が果たす役割は大きい。したがって、講義においては、初歩的な文法の解説や会話能力の訓練にとどまらず、より研究対象に密着した文献講読も重点的に実施した。その成果として、受講者の大学院生たちは、自らの専門テーマに即した文献講読能力を画期的に向上させることができ、現地語を縦横無尽に利用した先駆的な研究成果を次々と挙げ始めている。このことは、教室語学を超えた、研究に直結する語学力をもった次世代研究者の育成に本事業がきわめて大きな意義を持っていることを如実に表している。また、各講義とも、代表者の所属する研究科だけでなく、学内の様々な研究科の大学院生が履修し、全学的にも本事業の効果はきわめて大きかったと思われる。</p>